

1. とうもろこしのシカゴ定期は、5月下旬には390セント／ブッシェル前後で推移していたが、米国産地での作付け進度が大幅に遅れたことから6月には450セント／ブッシェル台まで急騰した。その後、受粉に適した天候が続いたことや、8月12日発表の米国農務省需給見通しで、単収が市場予想を上回ったことなどから軟調な展開となり、現在は370セント／ブッシェル前後となっている。
2. 大豆粕のシカゴ定期は、5月下旬には330ドル／トン台で推移していたが、米国産大豆の作付けが降雨により遅れたことから6月には350ドル／トン台まで値上がりした。その後、生育に適した天候となったことから軟調な展開となり、現在は320ドル／トン台となっている。
3. 米国ガルフ・日本間のパナマックス型海上運賃は、5月には45ドル／トン前後で推移していたが、中国向けの南米産大豆の輸送需要に加え、とうもろこしの輸出も本格化したこと、また中国の粗鋼生産の増加に伴い鉄鉱石の輸送需要が増加したことから上昇し、現在は55ドル／トンを超える水準となっている。
4. 外国為替は、6月には108円前後で推移していたが、8月に入りトランプ大統領が中国に対し追加関税を課すと表明したことにより円高が進み106円台で推移した。その後、米中貿易協議の進展期待が高まったことから、現在は108円前後となっている。

